２００７年3月　№67

みんなで遊ぼう　みんなで学ぼう　場所：国分ヶ丘集会所

国分アンビシャス広場だより

AMBITIOUS

国分アンビシャス広場ホームページ
http://www.f-icq.com/ambitious

３月の広場のある日

日	月	火	水	木	金	土
						3
			7			10
			14			17
			休			24
			28			31

水曜日　15：00～17：00
土曜日　14：00～17：00

アンビシャス教室
卓球　14:00～15:00
3、10、24、31日
囲碁　10:00～11:30
3、10、24、31日
抹茶　17日、14．00～
広場祭りでサービス

広場祭り

3月17日（土）
13:00～
国分アンビシャス広場

焼きそば
綿菓子
抹茶サービス
こま記録会など

ちびっ子指導員

１月２０日　ちびっ子指導員（B級）の認定試験に木下智稀君が合格しました。



一紀生るたへ　二一世にき君ち

司馬遼太郎

人間は、社会をつくって生きている。社会とは支えあう仕組みということである。原始時代の社会は小さかった。家族を中心とした社会だった。それが次第に大きな社会になり、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合いながら生きているのである。自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。

このため助け合う、ということが人間にとって大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のもとのもとは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることと言ってもいい。優しさと言いかえてもいい。「いたわり」「他人の痛みを感じること」

「やさしさ」みなにたような言葉である。この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といっても本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。例えば友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。この根っこの感情が自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわきでてくる。

君たちさえ、そういう自己をつくっていけば、二一世紀は人類が仲よしでくらせる時代になるのにちがいない。

（中公文庫　十六の話から）

広 場 風 景



２月１７日、雨の広場でちびごまの大会をしました。１６人のトーナメント
１位　中島大輔君、　　２位　植田　悠君でした。

ダンボールの家で遊びました。すぐにこわしてしまいました。



‘外でみんなと思いっきり遊ぼう’

未就学児は、ボランティアの目が届きません**保護者同伴**でお願いします。

アンビシャス運動は県民運動です

広場についてのお問合せ　℡924-0580
国分アンビシャス広場委員会　藤田彩子